

平成29年度 磯子区運営方針 期末振り返り

【達成度】 5:目標を大きく上回る成果が上がった 4:目標を上回る成果が上がった 3:目標通りの成果が上がった 2:目標を下回る成果に留まった 1:目標を大きく下回る成果に留まった

基本目標 「地域の人たちとともに暮らすやすいまち・いそご」を目指して

※達成度欄の()内は中間期評価

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価	
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度
(1)地域の特色を生かしたつながりづくりの活動を支援します <区政推進課 地域振興課>							
1 魅力にあふれた住み続けたいまち	①区民主体の地域づくりの支援	地域の様々な団体が意見交換を行う場(コスモスミーティング)の参加者アンケートで有意義と答えた人の割合70%以上	<ul style="list-style-type: none"> コスモスミーティングの参加者アンケートで有意義と答えた人の割合 89.4% (コスモスミーティング及び参加者アンケートの実施(6月~7月)) 区連会、地区連合定例会で主な意見やアンケート結果を報告(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会町内会を中心に様々な立場の方に参加していただき、活発な意見交換が行われた。 アンケート結果や各地区の実施状況を踏まえ、30年度はコスモスミーティングが地域主体の課題解決の場としてより活性化するよう支援をしていく。 	4 (4)	<ul style="list-style-type: none"> コスモスミーティングは各地区で事前にテーマを決めた方がより効果上がるのではないかと。 コスモスミーティングに、なるべく多様な新しい人を巻き込んでいくことが大きな課題。 コスモスミーティングは、これからを担う若い世代に参加してほしい。 各地区での課題を浮かびあがらせることができたのではないかと。 今年度は目標を上回る成果があがっていると思う。次年度の目標に、「新規参加者比率」を加えてはどうか。 地域づくり塾は、参加者の意識の変化などアンケートの結果を大事にしながら、地域での活動につながっていくような支援をしてほしい。 地域づくり塾は、新しい活動の継続と発展を目指し、フォローしてほしい。 いそご地域づくり塾は今後につながっていくと思うので、しっかり研修しながらぜひ続けていただきたい。 参加者から「とても価値のある講座で勉強になった。機会があればまた受講したい」との声を聞いた。継続してほしい事業。 極めて高い満足度について、どのような点に満足されたかの分析があると、今後の企画の参考になるのではないかと。 「つながる ひろがる」を拝読している。既存の団体運営も学びたい。研修などをしてほしい。 	4 (4)
		⇒ 地域課題の解決に取り組む「いそご地域づくり塾」の実施 参加者30人 実施回数6回	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり塾開催へ向け主催者(区・区社協・れんげ舎)及び関係者との調整(~9月) 講座内容(全7回、定員30人)の確定(7月) 受講生の募集(8月~9月) 講座の実施(10月~1月、全7回)、参加者30人(応募者50人) 受講生のフォロー講座の実施(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の講座に対する満足度が高く(満足・ほぼ満足100%)、また、講座参加者同士の交流も深まった。 受講生と区、区社協、ケアプラザ等とのつながりができ、29年度のテーマである「居場所づくり」に向けた具体的な動きにつながっている。 			
(2)地域のにぎわいづくりや活性化に取り組みます <総務課 区政推進課 地域振興課>							
①磯子区制90周年記念事業の実施	⇒	区制90周年祝隊による区内各地でのPR 15回	<ul style="list-style-type: none"> 区制90周年祝隊によるPR24回(~12月) 夏の交通事故防止運動キャンペーン参加(7月) 	<ul style="list-style-type: none"> 区内外で目標回数以上のPRを行うことができ、地域と一体となった90周年の盛り上げや記念事業の成功につながった。 	5 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 「ISOGO 90」の結成やPR活動で、子どもから大人まで「区制90周年」の事業は参加者も多く、大いに盛り上がった。子どもたちにとっても次の100周年に向けて期待が持てる取組になった。 記念式典は入りきらないほどの人がいて、とても良かった。 タイムカプセル郵便は、他都市で行方不明となることが多かった。引き継ぎをしっかりとしてほしい。 タイムカプセル郵便は、10年の間に転居する児童への対応について、区の担当者がしっかりと引き継ぎをするように。 前日祭やいそご魅力発見クルーズはかなりの好評を得ている。そこに至るプロセスの中でいろいろな波及効果が出ているのではないかと。 前日祭はいろいろなジャンルの方たちが参加して素晴らしかったが、第一部などは空席が目立った。周知の仕方をもっと工夫できればなお良かった。 磯子まつりは、各地区のイベントを通して磯子区民としての一体感が高まった。 産業道路上の歩行者天国によるイベントは大いに盛り上がった。これからの磯子まつりも、歩行者天国を継続してはどうか。 90周年記念事業はどれも好評であった。それぞれが連携できたことで一体となって盛り上げることができた。 好評のうちに終了してよかったと思う。ぜひ今回のつながりや経験をよい形で次へつなげて頂きたい。そのためには、実施の中で見出された課題や問題点、改善点などを整理されるとよいと思う。 	5 (4)
		いそご魅力再発見クルーズ(仮称)の開催 8月	<ul style="list-style-type: none"> 「いそご魅力再発見クルーズ」の開催、乗船人数115人(8月20日) 	<ul style="list-style-type: none"> 5回の運航すべてで受付開始前に定員に達するほどの盛況となり、参加者から好評を得た。また、根岸湾からの眺めなど新たな磯子の魅力をPRできた。 			
		区制90周年記念式典の開催 400人	<ul style="list-style-type: none"> 司会者及びオープニングファンファーレ演奏校の決定(6月) 司会者との打ち合わせ(7・9月) 案内状の発送(8月) 記念式典の開催、参加人数約550人(10月1日) 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会町内会を中心に関係団体や企業等、当初予定を大幅に上回る参加があった。 式典をスムーズに進行することができ、中学生の演奏や小学生の発表も素晴らしい、多くの参加者から好評を得た。 			
		タイムカプセル郵便の実施 区内市立小学校の4年生 約1,200人	<ul style="list-style-type: none"> タイムカプセル用はがきのデザイン決定(6月) 区内市立小学校へタイムカプセル用はがき約1,250枚及び回収用のミニポストを配付(7月) 1,193枚の回収があり、記念式典において、4年生代表者から磯子郵便局長へ回収したはがきを手渡すセレモニーを実施(10月1日) 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが10年後の自分へのメッセージを作成することで、将来への期待や夢を考えるきっかけとなった。 			
		区制90周年記念磯子まつりの開催 来場者56,000人(54,000人)	<ul style="list-style-type: none"> 磯子区制90周年記念事業実行委員会の開催 5回(~3月) 各部会・担当会の開催 18回(~9月) 出店者・出演者・従事者説明会の開催 5回(8・9月) 前日祭の開催(9月30日) 磯子まつりの開催 来場者59,000人(10月1日) <p><関連取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街朝市の合同開催(10月1日) 区庁舎正面入り口での90周年イルミネーションの実施(12月19日~28日) 90周年フィナーレイベントの開催(12月28日) 第42回磯子まつりの企画案検討(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 区制90周年記念事業実行委員会での議論を経て、子どもから大人まで楽しめるような、にぎわいが増す企画を検討し実施した。 磯子まつりの目玉として、産業道路路上にステージを設置し、区制90周年祝隊「ISOGO 90」、最新の仮面ライダーや仮面女子のライブを実施した。実行委員からは、「大型トラックステージは盛りあがって大変よかった」といった意見があった。 磯子センター体育館では、高校生による参加型体験ブースを設け、次世代を担う青少年との連携を図った。実行委員からは、「盛況だった」「子どもたちが楽しんで」「生徒も満足した活動ができた」といった意見があった。 実行委員やスタッフ用のオリジナルTシャツを制作し、当日着用したことで、一体感のある磯子まつりにつながった。 関連取組として、90周年の締めくくりイベントを実施し、区民と共に90周年終了を迎えた。 30年度実施する磯子まつりについて、区制90周年の経験を生かし、区民の皆様がさらに磯子区に愛着をもってもらえるような企画を検討した。 			

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価	
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度
1 魅力にあふれた住み続けたいまち	②商店街のにぎわいつくり	区役所で開催する商店街朝市来場者延べ4,500人(4,000人)	・区役所での商店街朝市 来場者延べ4,750人 (~3月) (内訳) 5月27日:500人 11月3日:2,100人 1月27日:550人 3月10日:1,600人	・5月の朝市では、「ふれあい水族館」を実施し、ファミリーでの参加があり、多くの区民に商店街のPRができた。 ・11月の朝市では、他イベントと同時開催することにより、幅広い年代の方々に商店街をPRすることができた。 ・1月の朝市では、幅広い年代の方々に来場していただくために、例年のお年玉朝市に加え、ウォーキングポイントの同時開催や子供向けに自転車シミュレータの実施、買い物をした方へのプレゼントなど新企画を実施した。 ・3月の朝市では、ダンスまつりと同時開催に加え、お笑いコンビ横浜ヨコハマやフォークデュオN.U.のライブなど新企画で来場者増に取り組んだ。	3 (3)	・商店街朝市は、他イベントとの共催の方が来場者も増えるので、今後もその形で開催してほしい。 ・なかなかすぐに大きな成果は出にくいかもしれないが、継続的な取り組みが必要。 ・商店街と他団体とがうまく連携できないか。 ・モデル事業は、コンサルへの丸投げになってしまうように、プロセスの中で商店街にも関わってもらいながら、次へ繋がる支援としてほしい。	3 (3)
		活性化のためのモデル事業の実施 2商店街	・15商店街に実施したヒアリング内容の分析(~6月) ・モデルとなる商店街の決定(根岸橋通り商和会、杉田商店街)(8月) ・コンサルタントへ発注(10月~) 商店街・来街者へのアンケート実施(11・12月) 商店街の店舗へのヒアリング実施(12月) ・アンケート・ヒアリング結果等のもと、 支援メニュー提案 (3月)	・「商店街の人手不足」「商店街・お客の高齢化」を解消する課題として、モデル事業を行うことになった。 ・コンサルタントに対して、地域の実情に即したアドバイスを行うことで、より良いアンケート票を作成することができた。 ・地域のイベントへの参加や地域団体にアンケートの協力をいただく等、来街者へのアンケートを効果的に実施することができた。 ・商店街に対して効果的な支援メニューの提案を行うことができた。30年度以降も事業の実施等で商店街の支援を行っていく必要がある。			
	③第6回ISOGOダンスまつりの開催	文化振興だけでなく、青少年の健全育成に資するイベントとなっている	・出場チームの募集(10月~12月) ・発表会出場チーム抽選会(12月15日) ・コンテスト予選会開催(1月21日) ・ダンスまつり開催(3月10日)	・ダンス初心者にコンテストの雰囲気や体験させ、本選出場という目標を持たせるためのトライアル部門を新設した。 ・広報よこはま、自治会町内会へのチラシ配布、フリーペーパー等を活用し、出場チームを募集したことで定員を上回る応募があった。 【出場チーム数】 コンテスト部門:30(応募チーム数 36) (小学生以下:11、中学生:8、高校生以上:11) 発表会部門:25(応募チーム数 32) トライアル部門:1(応募チーム数 1) (小学生以下:1、中学生:0) ・コンテスト予選会において、参加者に対して審査員から、ダンスの技術のみならず健全育成に重点をおいたアドバイスをいただくことができた。本選においても同様に実施した。	3 (3)	・若者のイベントなので、プロセスに若者が入って若者自身が魅力的に感じるイベントにしてほしい。魅力的なイベントかと思うので、ぜひ若い感性をどのように盛り込むかを考えてほしい。 ・大変上手く進んでいるように感じる。 ・当日の盛り上がり期待したい。 ・年々盛況になっている。前年に参加した高校生が健民祭や磯子まつり等に積極的に関わり、盛り上げてくれた。 ・今までの経緯を見てみると、昨年に比べて遜色ない状況で推移している。今年も予定通り、かなり盛り上がるのではないかと。	4 (3)
(3)温暖化対策やごみの削減、緑の創出に取り組めます <区政推進課 地域振興課 こども家庭支援課 土木事務所>							
①区民一人ひとりが取り組む脱温暖化行動やごみの削減の啓発	いそごこどもエコフェスタ2017 来場者2,200人(2,000人)	・環境行動推進本部総会で実施の承認(5月) ・出展企業や出演者等との調整(8・9月) ・ いそごこどもエコフェスタの開催 来場者数2,200人 (12月9日)	・区内企業等の協力を得て、魅力的なブースやステージイベントが実施できた。来場者のアンケートで「来年もまた来たい」といった感想が寄せられ、子どもたちにも楽しんでもらいながら環境について考える機会とすることができた。 ・さらに楽しんでもらえるように、来場者が長い時間滞在できるような工夫や新たな企画を考える必要がある。	3 (3)	・他事業で様々に行っているフェスタ・イベントに相乗りするなど、開催方法を工夫するとより多くの人の目に触れる機会を作れるのではないかと。 ・参加する企業などが減ってきているように思う。 ・小学生の参加を増やす仕掛けが必要ではないか。 ・子どもたちが環境について考える機会なので続けてほしい。 ・目標どおりとはいえ、昨年比1割増は立派だと思う。 ・ごみ削減は地道に継続して取り組むしかない。 ・ごみの分別は、そんなに分別しなくてもよいと思う人もいるが、地道にやっつくしかない。 ・毎年地道な目標をしっかりと達成してきているように見える。 ・ごみ削減等啓発活動は、やり方や回数を工夫して、啓発の機会をもう少し設けてはどうか。	3 (3)	
		磯子区環境行動推進本部が策定するごみと資源の目標値(原単位)の達成 ※平成29年度の目標値 原単位 629g(前年度比▲7g)	・原単位実績 626g(前年同月比▲8g) (3月推計値)				・今後も継続的に、ごみの分別・削減に関する正しい知識を普及・定着させていく必要がある。 ・年度目標は達成できる見込みである。
	民間保育施設と連携した季節の花の栽培と展示 5~3月	・保育園や幼稚園等の園児同士での種まき(15回・12園(市立4園・民間8園))や栽培物への水やり(~3月) ・パンジー、ひまわり、ポチュラカ、クロッカスなど 季節の花の栽培展示(~3月) ・市立保育園4園共通の看板作成(6月)	・牛乳パックで作ったポットを持ち寄り、園児同士が交流しながらコスモスなどの種まきを楽しむことができた。 ・花の展示を見た方から「きれいに花を飾っていて素敵ですね」と声をかけられるなど地域の方にも喜ばれている。	3 (3)	・園児の種まきは、就学児童や親世代、高齢者など、多世代交流の機会としても可能性があるのではないかと。 ・子どもたちが植えた野菜を給食に使うなど、各園が努力している。 ・各保育園に園児たちが栽培した花・野菜が実っていて見事だった。 ・区役所ホールの花の展示も良かった。	3 (3)	
保育教育施設パネル展での区制90周年を祝う花の展示 10月	・90周年を祝う花の展示方法の打合せ(6月~9月) ・ 保育教育施設パネル展での90周年を祝う花の展示(10月) ・29年度の展示についての振り返り及び30年度の花の展示の検討(1月)	・花の栽培を各園で行い、土木事務所と連携をとりながら、展示をすることができた。また、90周年を祝う装飾を園児たちと作成できた。					
緑化活動団体への技術支援 7回(7回)	・緑化活動団体への技術支援実施 7回 (5・6・7・9・10・11・2月) <関連取組> ・杉田一丁目ふれあい広場への花時計の設置(4月~6月) ・聖天川沿い車道の緑化(通年)	・活動団体から好評を得ており、継続していく。					
(4)磯子区の将来像を見据えたまちづくりに取り組めます <区政推進課>							
①磯子区の将来像の提示	磯子区まちづくり方針改定原案の市民意見募集 6月 まちづくり方針の改定 3月	・改定原案の策定(5月) ・改定原案への意見募集実施の周知(記者発表、自治会会長配布、区内施設配架など)(6月) ・ 市民意見募集の実施(6月12日~7月3日) ・市民意見を踏まえた改定案の策定(10月) ・都市計画審議会へ付議、可決(1月15日) ・ まちづくり方針の改定告示・公表(3月23日)	・3年間にわたる改定作業の中で 区民との対話を十分に重ねたこと で、区民、事業者の意見を聞きながら 磯子区の特徴を盛り込んだ将来像をまとめることができた。	4 (3)	・計画を作る中で、まちづくりの意識が高まって次へ繋がっていく過程を踏めていると感じた。 ・都市計画に絡む内容でかなり専門性も高いので、内容がしっかり周知されていたかは各地区で温度差があると思う。 ・各地区の温度差はあるにしても良くできたと思う。 ・難易度高い取り組みだったのではないかと。 ・次の世代に向けてこれを指標にしなが、まちづくり活動を進められるようなものができたと思う。 ・断片的に捉えるのではなく、長いスパンで物事を考えなければならないが、そういう意味ではどの地区も良かった。	4 (3)	

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度	
(1)身近な地域で支えあう地域福祉や健康づくりの取組を推進します <福祉保健課 土木事務所>								
2 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	①第3期磯子区地域福祉保健計画「スイッチON磯子」の推進	⇒ 地域支援研修、講演会及び地域支えあい事業全体研修会の開催 各1回 地区別推進会議の開催 27回(30回)	・地域支援研修の開催(6月29日・7月6日) ・「スイッチON磯子」講演会の開催(11月29日) ・地域支えあい事業全体研修会の開催(3月7日)	・地域支援研修は、区・区社協・地域ケアプラザ職員の地域支援のスキル向上に役立つ充実した内容であったため、30年度以降も必要なスキルに応じたテーマを選定し、実施していく。 ・講演会は、健康づくりをテーマに、区民にとって興味深く分かりやすい内容であり、効果的な普及・啓発ができたため、30年度も引き続き開催する。 ・地域支えあい事業全体研修会は、講演及び事例発表の内容が確定し実施した。	3 (3)	・全体研修会はテーマが良かった。 ・確実に実施されている印象。次年度への課題なども整理されているようだ。	3 (3)	
	②保健活動推進員によるウォーキングイベントの継続・推進	⇒ 全9地区1回以上(全9地区1回以上延べ16回)	・企画・実施に関する内容を含んだ研修会の実施、延べ参加者133人(6月) ・全9地区1回以上延べ15回実施、延べ参加者499人 根岸地区1回(10月)、参加者33人/滝頭地区1回(10月)、参加者15人/岡村地区2回(10・11月)、参加者延べ126人/磯子地区3回(6・11・1月)、参加者延べ68人/汐見台地区1回(11月)、参加者42人/屏風ヶ浦地区3回(4・6・11月)、参加者延べ92人/杉田地区2回(7・10月)、参加者延べ71人/上笹下地区1回(11月)、参加者22人/洋光台地区1回(10月)、参加者30人 <関連取組> ・磯子区90周年記念「健康ウォーキング in ISOGO」の実施(10月8日)、参加者40人	・研修会には、28年度(延べ124人)より多くの参加者があった。 ・地区別のウォーキングイベントでは、各地区の保健活動推進員がコースの検討や下見等を丁寧に行い、延べ15回のウォーキングイベントを楽しく安全に実施するとともに、地域の人たちが「つながる場」としても効果を上げることができた。 ・区制90周年記念ウォーキングでは、商店街の協力による「チョイ食べ」や「昔遊び」などを初めて試みることも、ウォーキング講座、健康チェックなどを保健活動推進員等の関係団体と連携しておこない、参加した小学生の親子に満足度の高いウォーキングイベントを提供することができた。 ・今後とも、ウォーキングを通じた健康づくりの啓発をより一層推進する必要がある。	4 (3)	・スイッチONの第二期で共通テーマとして健康づくりを挙げたことで、今年度健康づくりに関してみんなが取り組んで盛り上がった。 ・各地区工夫をしながら取り組めた。継続していくことが必要。 ・地域団体や商店街との連携がよかったと思う。今後もこうした連携の進展に期待したい。 ・商店街の魅力も紹介できたのではないかな。 ・親子でウォーキングは商店街と連携した。他団体との連携は、地域活性につながっていく。 ・もっと他団体とも連携し、健康づくりを進めることができれば、活性化できるのではないかな。	4 (3)	
	③健康づくりにつながる施設整備	⇒ 歩くことが楽しくなるルート整備 1か所(1か所) 健康公園の整備 2か所(2か所)	・山ルート(磯子駅~久良岐公園)へのベンチの設置 3基(12月)、行先表示標の設置(3月予定) <関連取組> ・杉田ふれあい緑道へのベンチの設置 3基(~3月) ・設計委託契約(5・6月) ・対象を泉谷第二公園・杉田三丁目公園に決定(8月) ・設計(~9月) ・発注(11月)・健康遊具などの設置完了(3月)	・ルート選定及びおやすみベンチ設置位置は、地域の声や地元要望を反映して進めた。 ・整備内容については、地域の要望も反映して設置を行った。	3 (3)	・公園や健康遊具は、設置するだけでなくどう使っていくかが大切なので、周知も含めて積極的に活用してほしい。	3 (3)	
(2)未来を担う子どもたちを健やかに育む環境づくりを推進します <区政推進課 地域振興課 子ども家庭支援課 生活支援課>								
①地域で支える子ども食堂の開設支援	⇒ 子ども食堂の立ち上げ 1会場 7月	・地域主体での立ち上げに向けた支援(~6月) ・団体立ち上がり5団体とNPOでの実施1団体(7月~3月) ①杉田地区:8月24日より開始(於:新杉田交流スペース) 月1回、計6回開催 延べ参加者数子ども123人 大人78人(1回利用者平均 子ども21人 大人13人) ②上笹下地区:9月8日より開始(於:上笹下地域ケアプラザ) 月1回、計4回開催 延べ参加者数子ども245人 大人64人(1回利用者平均 子ども61人 大人16人) ③磯子地区:9月21日より開始(於:磯子地域ケアプラザ) 月2回、計9回開催 延べ参加者数子ども293人 大人103人(1回利用者平均 子ども33人 大人11人) ④屏風ヶ浦地区:11月20日より開始(於:屏風ヶ浦地域ケアプラザ) 月1回、計3回開催 延べ参加者数子ども114人 大人78人(1回利用者平均 子ども38人 大人26人) ⑤滝頭地区(NPO法人夢コミネット):2月10日より開始(於:コミュニティステーション夢まる) 月1回、計1回開催、参加者数子ども75人 大人62人 ⑥滝頭地区(地縁団体):運営委員会発足(1月)、プレオープン(3月) ・磯子事業会との包括連携協定に基づく食材提供などの開始(10月~) ・子ども食堂ネットワーク連絡会の開催(1月22日) ・ボランティア向け研修会の開催(3月13日)	・区社会福祉協議会とともにボランティア団体の立ち上げを支援してきた結果、子ども食堂が6か所開設された。 ・そのほかの地区でも、子ども食堂に関わりたい、または立ち上げたい等の声が出始めており、これらの団体への支援方法も検討が必要である。 ・子ども食堂が子どもたちの居場所になるように、学齢期の子どもへの関わり方や居場所の役割について、担い手が学ぶ機会なども必要と考え、3月13日に研修会を開催した。 ・子ども食堂ネットワーク連絡会を区社協主催で開催し、区は連絡会内で生活衛生課・生活支援課・子ども家庭支援課より情報提供した。また、事業会や食品衛生協会からの食材などの提供協力についても情報を提供した。 ・子ども食堂は、今後もボランティアによる運営となるため、ボランティアの運営、資金、食材確保、周知の課題は残る。区役所は、区社会福祉協議会と連携し、継続的に運営や周知を支援していくほか、食材確保についても、磯子事業会との包括連携協定に基づき、すでに実施されている加盟企業からの食材提供をはじめ、具体的な支援を子ども食堂ネットワークを通して図っていく。	4 (4)	・子どもたちが孤立しないよう身近な場所でのつながりの場が持てるよう、これから一層の支援を続けていただきたい。 ・対象範囲の難しさはあると思うが、必要とされる活動。食材、担い手共に今後更なる支援が望まれる。 ・あわせて、フードドライブ活動の推進を図り、材料の確保を図ってほしい。 ・大きな成果が出ていると思う。今後、継続的に活動が続くようなしくみや支援についても検討して頂きたい。 ・小学生から高校生まで幅広い年齢の子どもたちで賑わっていた。従事者から今後の食材の提供に不安があるとの声を聞いた。継続するための支援を続けてほしい。 ・「子ども食堂」という名称だと子どもたちはなかなか入りにくいので、各地区で名称を工夫していい。 ・おそらく大変ニーズが高くて大事な活動。なるべく活動の回数が増えて継続していくことが今後の課題になるので、検討してほしい。 ・地域の特性に合わせながら、運営と相互に見合うような関係を作ってほしい。 ・実際に参加した保護者から、いろんな話が違った形で聞けるので参加して良かったという話を聞いたので、ぜひ継続してほしい。	4 (4)		
②地域全体への子育ての情報の提供	⇒ 地域での子育てフェスタの実施 4会場(4会場)	・4エリア(①根岸・滝頭・岡村②磯子・屏風ヶ浦・汐見台③杉田・上笹下④洋光台)での子育て支援連絡会開催(5月~12月、各地区2回開催) ・子育てフェスタの開催 4会場5回 ①根岸・滝頭・岡村:参加者31組66人(12月4日 滝頭地域ケアプラザ) ②磯子・屏風ヶ浦・汐見台:参加者33組70人(9月4日 磯子地区センター) ③杉田・上笹下: 第1回 参加者50組101人(7月10日 杉田劇場)、 第2回 参加者60組134人(11月6日 JA横浜磯子支店) ④洋光台:参加者35組79人(8月28日 洋光台地域ケアプラザ) ・磯子区子育て連絡会の開催(9月4日、2月23日)	・昨年より、幼稚園・保育園への入園・入所に養育者が情報が取れるように開催時期が早まった地区もあり、準備が大変であった。しかし、区と子育て支援拠点を中心に、地域の主任児童委員、保育園、親子のつどいの広場などの地域の子育て支援をする方々とともに実行することができた。 ・4会場5回で、それぞれの子育て支援の資源を生かす形でのプログラムを作ることができた。 ・フェスタの開催にとどまらず、日常的に地域で行われている子育て支援活動での課題解決につながるようなネットワークの構築が必要である。 ・子育て支援活動の課題を抽出するために、どのような方法があるか、子育て支援拠点と検討する必要がある。	3 (3)	・開催会場は4か所だが、全地区が参加している。今後、ますます工夫を凝らしてほしい。 ・地域でも行っているが、子育て中の人にとっては、色々な人と顔見知りになる場所が多い方がいいので続けてほしい。 ・これぞまさに区民に喜ばれる施策かと思う。 ・今後は、何らかのテーマ設定を行い、課題解決ができるプログラムを提供してほしい。 ・フェスタ開催のみならず、(イベント当日だけでなく)「日常的な場」やネットワークをどのように構築するか検討を進めて頂きたい。 ・区内に子育て拠点は1か所だが、4か所の地域で親子が交流できるフェスタの開催はすごく好評だと伺っている。今後もぜひ続けてほしい。	3 (3)		

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価	
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度
2 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	③市立保育園を活用した保育資源ネットワークの構築	保育の質の向上のための研修 25回 (17回)	・保育の質の向上のための研修 33回 全体研修 27回、参加者延べ797人(5月～3月) 自主研修 6回(根岸・汐見台・杉田・洋光台地区)(～3月)	・「保育基礎研修」「グループワーク研修」「防犯研修」などを実施し、 研修実施後のアンケートでは98%が今後の保育に生かせるとの回答 であった。 ・市立保育園で実施している「公開保育」に、今年度から 民間保育施設職員も参加 し、保育実践について互いに学びあっている。 ・ 区全体での研修から発展して、地域で防災などに関する自主研修も実施 されており、学び合いの風土が広がっている。	4 (4)	・子育てのための人材確保は大事な課題。磯子のため、だけではなく、横浜のため、日本のため、にも続けていただきたい。 ・園同士の交流は、情報の共有や保育の質の向上にもつながると思うのでぜひ続けてほしい。 ・園同士だけでなく、小学校や地域ケアプラザとの交流もあり、地域につながっているのが良い。 ・園同士の横のつながりが大事になってくるので、その視点は引き続き大事にしてほしい。	4 (4)
		⇒ 園同士の交流 62回 (58回)	・園同士の交流 69回(～3月)	・戸外遊びや避難訓練など公園でも園同士の交流を行っている。 ・小学校の運動会の練習を見学するなど、小学校を介した園同士の関わりという形も増えている。			
	④待機児童ゼロを目指したきめ細かな情報提供	保育・教育コンシェルジュによる出張相談 40回 (30回)	・保育・教育コンシェルジュによる出張相談 42回(～3月)	・出張相談は毎回10人～20人の相談があり、個々の状況に応じて利用可能な保育施設等を紹介するなど、様々な情報提供を行うことができた。また、保育所に関連する悩みの相談も受け付け、参加者の不安解消にも努めた。	3 (3)	・若い保護者の不安を取り除くためにも、出張相談会はますます必要。 ・出張相談については、情報提供のみならず、具体的な解決につながるよう、関係部署・機関・団体などへのつなぎを検討頂きたい。 ・保留児童全員に紹介できたことは評価すべき。 ・職場復帰を希望する保護者にとって保育園の新設は朗報。今後も待機児童ゼロを目指してほしい。 ・保留児童は昨年と比べて減っているので、取組の成果は現れ始めている。	3 (3)
		⇒ 個々の状況に応じた利用可能な保育施設等の紹介 保留児童全員	・平成30年4月開設に向けた認可保育園2園、小規模保育事業1園の新設調整 定員合計151名増 ・ 個々の状況に応じた利用可能な保育施設等の紹介 保留児童全員 (2月～3月)	・保育所の4月利用新規申請者数が昨年より増加しているが、保育園の新設により保留児童は昨年同時期と比べて微減とすることができた。 ・保留児童全員に個々の状況に応じた内容で、利用可能な認可保育所を手紙や電話で紹介し、保護者に寄り添ったきめ細かい相談対応や情報提供を行った。			
	⑤青少年健全育成施策の充実	青少年健全育成指針の策定 10月	・指針検討会議の開催(6・7・9月) ・ 磯子区青少年健全育成指針の策定(9月) ・概要版(子ども向けリーフレット)の作成(9月) ・指針の広報(10月) 広報よこはま磯子区版10月号、磯子区ホームページへの掲載、区連会を通じて、自治会町内会へ指針を配付、校長会を通じて、全小中学校児童生徒へ指針(リーフレット)を配付	・ 青少年の健全育成に関する指針の作成は、市内初の取組 だったが、専門家の意見や指針検討会議での議論を経て、指針の作成に至った。 ・大人だけでなく、青少年にも指針の内容を知ってもらうため、当初予定になかった概要版(子ども向けリーフレット)を作成した。 ・実際に地域や学校・家庭で指針の行動計画を実践してもらう必要がある。	4 (3)	・磯子区の、青少年育成への熱い思いが感じられる。 ・子どもに対する課題が複雑になっているので、学校や地域を巻き込みながら、青少年健全育成指針を活用できる方法を検討してほしい。 ・当事者である子ども向けリーフレットの作成は良いことだと思う。 ・小中学生が専門家の講演を聞くことはあまりないと思うので、今後も活発に開催してほしい。 ・企画については、子ども自身が関心を持てるような、子どもの目線が必要だと思う。リーフレット作成や講演会の企画立案の過程に子ども自身が参画するような仕組みがあるとよいのではないかな。 ・インカツは、週3日以上の開所を望む。 ・インカツ保護者セミナーを計画するなど順調にスタートしている。 ・地域活動拠点の開設時はあまり知られていなかったが、中学校や高校に周知を行ったことで子どもたちが増えてきた。今後子どもたちが地域の中で関わられるよう繋がっていくことに期待したい。 ・地域活動拠点に集まった子どもたちが磯子まつりなどで一緒に活動する場を作ることを期待する。 ・地域活動拠点の11、12月の利用者数を見るとかなりのニーズに応えられているようだ。	4 (3)
		⇒ 区民向け講演会の開催 1回 (1回)	・総会において、 区民向け講演会から小中学校での出前授業に内容を変更することを決定 (6月) ・公募により出前授業実施校を決定(磯子小学校・根岸中学校)(7月) ・ 磯子小学校5・6年生に出前授業を実施 、参加者170人 テーマ:「SNSアプリとの付き合い方」(10月31日) ・ 根岸中学校2年生に出前授業を実施 2回 、参加者延べ170人 テーマ:「いじめをなくすためにできること～傍観者をなくすこと～」(11月27日、12月18日)	・28年度は大人向けの講演会を実施したが、青少年の健全育成に取り組むためには、大人だけでなく子ども達自身に正しい知識を身に付けてもらう必要があると考え、専門家による出前授業を開催することとした。 ・学校との調整により、 予定を上回る年3回の実施となり、青少年の健全育成・道徳教育の推進に寄与することができた。			
青少年の地域活動拠点の開設 10月		・開設に向けた調整(～8月) ・運営団体の公募開始(9月) ・運営団体の決定(10月) ・ 青少年の地域活動拠点の開設 (11月22日) 週3日開所(火・木15:00～20:00、土13:00～18:00) 11月:23人(開所日数2日、1日平均11.5人) 12月:162人(開所日数11日、1日平均14.7人) 1月:159人(開所日数12日、1日平均13.3人)	・平成19年度から各区への設置を進めている青少年の地域活動拠点を、 各方面との調整を経て、5年振りに市内6箇所目として磯子区で開設した。 ・中学校・高校を通じて、拠点の利用対象者である中高生への周知を行った。 ・今後実施する様々なプログラムの周知についても、中学校・高校に協力を依頼していく。				
⑥生活困窮世帯の子どもを将来の自立に向けた学習支援の実施	寄り添い型学習支援「磯子ペンきょう会」の開催 3か所 273回 (2か所200回)	・3か所で 272回開催 、参加者延べ3,801人(～3月) 磯子地域ケアプラザ91回、参加者延べ1,692人 洋光台地域ケアプラザ90回、参加者延べ1,145人 杉田劇場91回、参加者延べ834人 ＜関連取組＞ ・高校卒業に向けた相談支援・居場所 45回:参加者延べ130人(～3月)、自立支援講座の開催 2回:参加者延べ12人(7・8月)	・3月末現在の各学年ごとの参加登録者数(中学1年13人・2年18人・3年30人、高校生17人)。大雪の影響で中止した1回以外は当初予定通り開催した。 ・登録者への声かけを区・事業者で連携して行った結果、 磯子・洋光台地域ケアプラザでの勉強会出席率が28年度に比べ、2割向上 した(5月～1月の出席率:28年度約6割→29年度約8割) ・ 中学生向け「磯子ペンきょう会」に加え、高校生向けに卒業を目標とした支援を実施 。7・8月にはハローワークや、磯子事業会所属の区内企業の協力を得て「自立支援講座」を開催するとともに、地域施設が主催する夏祭りのイベントブースの内容を生徒が企画し、地域の人との触れ合いを経験した。10月には「磯子ペンきょう会」OBの高校生が先生役になり、中学生に受験勉強の体験談や高校生活について伝える企画を実施し、中学生、高校生双方にとって有意義な場となった。	4 (4)	・参加した子どもたちから勉強に対する意欲が出たとの声があり、今後も続けてほしい。 ・事情を知らない生徒が、僕も行きたいと言うので、どうしたら入会できるかと親が聞いていたとのこと。 ・マンツーマンでとても良い雰囲気と見受けられた。さらに増やしてほしい。 ・評判は良いようだ。 ・OBが先生役を行う学び合いの関係形成、いわゆる斜めの関係は大変有意義なので、今後もそのような取り組みを行って頂きたい。 ・とても好評で喜ばれている事業と聞いているので、ぜひ継続してほしい。	4 (4)	

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度	
(3) 高齢者や障害のある方が自分らしくいきいきと暮らすための取組を推進します < 区政推進課 高齢・障害支援課 >								
2 ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち	① 横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた磯子区行動指針の策定	磯子区行動指針の策定 3月	・磯子区行動指針骨子の策定(2月15日) ・ 磯子区行動指針の策定(3月20日)	・骨子・行動指針とも、庁内で地域包括ケア推進会議を開催し内容を検討するとともに、地域ケアプラザ、磯子区社会福祉協議会、区内の医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護師、ケアマネジャー等、それぞれの立場からの意見を反映できた。	3 (3)	・行動指針(案)はよくできているので、どのようにして個人に理解してもらうかにある。 ・地域ケア会議のリーフレットはかなり良くできており、非常に役に立つと思う。その後作成する地域包括ケアシステムのリーフレットの内容はさらに概念のレベルが高くないとつまらないものになってしまうので、注意してほしい。 ・区レベル地域ケア会議に出席したが、限られた時間、効率的な運営をしてほしい。	3 (3)	
	⇒	地域包括ケアシステム説明リーフレットの配布 5,000部	・ 地域包括ケアシステム説明リーフレットの配布開始 5,000部(3月)	・横浜型地域包括ケアシステム磯子区行動指針とともに運用し、地域包括ケアシステムの区民への周知を図る。				
	② 認知症高齢者への理解促進と地域の見守り体制づくりの推進	認知症サポーターの養成 累計13,500人(12,547人)	・1,593人養成、 累計14,140人 ・区職員向け研修の実施(6・7月) <関連取組> ・キャラバンメイト連絡会の開催(10月6日)	・各地域ケアプラザがキャラバンメイトと協働で、区民利用施設協会職員、磯子シルバー人材センター会員などの地域住民を対象に講座を実施し、認知症の正しい理解の普及と地域の見守り体制づくりの強化につなげることができている。	4 (3)	・キャラバンメイトが小中学校に行き行って講義をすることによって、子ども達の認知症の方たちに対する理解が深まり、接触することを怖がらなくなってきたことがとても良いことだと思う。 ・認知症理解が進むよう、今後もボランティア養成とサポートを続けていただきたい。 ・養成後のフォローアップやネットワーク化などの施策も今後は必要となるのではないかと。 ・子どもたちが認知症サポーターになり理解を進めることは、とても大切だと思う。 ・いそごオレンジボランティア登録者から認知症カフェ活動につながったのは素晴らしい。 ・オレンジボランティアの実際の活動状況がわかると良い。 ・登録した人が、そのまま活動につながっているところが素晴らしい。 ・指標を大きく上回る登録者となった以上に、実際の活動につながっている人がかなりいるということが素晴らしい。	4 (3)	
	⇒	認知症サポーターの高齢者支援ボランティア(いそごオレンジボランティア)登録 累計100人(78人)	・73人養成(～3月)、 累計151人	・区社会福祉協議会や地域ケアプラザと連携し、 指標を大きく上回る登録者数となった。うち90人(60%)が認知症カフェなどでの活動につながっている。				
	③ 高齢者の健康づくり・介護予防の推進	元気づくりステーション活動支援 新規2か所 継続20か所(新規3か所 継続17か所)	・ 新規2か所立上げ(4月)、継続20か所支援(～3月) ・元気づくりステーション交流会の開催(11月28日) ・運動・認知症予防リーダー養成講座の開催(10月25日、11月1日) <関連取組> ・活動支援に活用できる「ハマトレみんなの磯子体操」のリーフレット作成及び配布(10月)	・各地域ケアプラザと連携しながら、22か所のグループの自主活動支援ができており、目標を達成できている。 ・講座は、他の元気づくりステーションの活動内容が分かって良かったと好評だったが、ステーションの活動の担い手となる人材不足が課題であり、30年度は新規人材発掘のため、関連他課と連携できないかを検討していく。 ・関連取組として作成したリーフレットは元気づくりステーション参加者等へ配布したところ、ハマトレをする際に手元にあると分かりやすいと好評であり、講師がいない場面でも元気づくりステーションの運営がスムーズにできている。	3 (3)	・元気づくりステーションについては、多世代の関わりの推進についても検討頂きたい。担い手育成の観点からも重要ではないか。 ・元気づくりステーションの交流会は、運営していくのに必要なので来年も行ってほしい。	3 (3)	
⇒	介護予防講座・講演会の開催 60回(70回)	81回開催 ・介護予防普及啓発講座・講演会の開催 地域ケアプラザ74回 区7回:認知症とロコモ予防講演会の開催(9月1日)など	・各地域ケアプラザで介護予防普及強化事業を実施し、指標を大幅に上回る回数の講座・講演会を開催しており、多くの区民に介護予防についての意識啓発ができた。					
④ 高齢者が自分らしく生きるための本人及び介護者への支援	エンディングノート書き方講座 累計8,200人(7,739人)	・448人受講、 累計8,187人 ・認知症とロコモ予防講演会(9月1日)、元気づくりステーション交流会(11月28日)等でミニ講話開催	・引き続き、地域ケアプラザで実施するシニアライフ講座等や、区で実施する在宅医療や介護予防、認知症予防等の啓発講座と連動しながら、エンディングノートを配布する機会を設けていく。	3 (3)	・エンディングノート書き方講座を夫婦で受講した方が、ご主人が亡くなった際に安心して見送ることができたとおっしゃっていたので、ぜひ実施してほしい事業。 ・エンディングノートは行政の作る数少ないベストセラーで、各地区で話題になっている。 ・高齢化が進む中で、自分の後始末をどうするか考える機会になっており、参加者から好評だった。続けてほしい。 ・介護者は同じような状況の中で行き詰まることが多いので、情報交換の場として続けてほしい。 ・男性介護者は抱え込む傾向が強い。「しつけ」と称して手を出す現実を聞いている。 ・介護者の重荷を周りで分担することが必要で、対応を考えたい。 ・介護者のつどいは有意義だと思う。これを契機に、恒常的なネットワークづくりなどにつながればよいのではないかと。 ・ケアプラザの職員への研修は、地域に直結することなので、ニーズに合った研修内容をこれからも望む。 ・高齢者虐待防止への関心が高いことがわかり、次年度以降の活動のポイントの1つになると思う。 ・実際に高齢者虐待防止の講座を受けて、具体的にどうすればよいかを教えてもらったので、とても良かった。家族の方が気持ち整理できたという点で、意義のある講習だった。	4 (4)		
⇒	「介護者のつどい」参加者 延べ340人(334人)	・ 参加者延べ327人 ・案内チラシを作成、配架(10月～) <関連取組> ・地域包括支援センターと区が、「介護者のつどい情報交換会」を開催(7月11日)	・10月から案内チラシを配架したところ、病院に配架したチラシを見て、介護者のつどいへ参加した区民がおり、確実な成果が確認できている。 ・いかに「介護者のつどい」の参加者を増やしていくか、更なる普及啓発方法が課題であるが、引き続き、30年度も「介護者のつどい情報交換会」を開催し、地域包括支援センターと連携して「介護者のつどい」を周知していく。					
⇒	虐待の早期発見のための介護事業者向け研修会の開催 参加者50人(48人)	・ 参加者延べ82人 地域ケアプラザと連携して施設職員向け研修の実施 参加者24人(9月20日) 高齢者虐待防止ネットワーク研修会の開催 参加者58人(11月22日) <関連取組> ・磯子区では初めて高齢者虐待防止連絡会を開催(1月16日)、参加者17人(民生委員各地区会長、地域包括支援センター職員)	・研修会はケアマネジャー、ヘルパー等の多職種が参加。「他の職種と連携して虐待を防止することを学び、利用者宅の虐待防止を一人で行わなければならない」と思っていたが負担感が減った」と好評であった。 ・当初は居宅介護支援事業者等向けの研修会のみ予定していたが、施設からの研修要望にも追加で対応し、目標指標を上回る参加者への啓発ができています。 ・高齢者虐待防止連絡会では、民生委員と連携して虐待の早期発見をさらに進める素地ができた。					
⑤ 日常的な買い物困難者への支援	モデル事業の実施 1地区	・モデル事業実施予定の 上笹下地区 でアンケートを実施(6月～7月) ・アンケートの集計・分析(8月) ・アンケート結果を踏まえ、実施に向けた事業者Aとの調整(8月～) ・事業者Aとの調整が不調となったため、事業者Bとの調整を開始(11月～) ・事業者Bとの調整が不調となったため、事業者Cとの調整を開始(1月～)	・上笹下地区に店舗を有する事業者2者と調整してきたが、移動販売へのノウハウ不足や人手不足などにより、ともに不調に終わった。引き続き、モデル事業の実施に向けて、他の事業者との調整を行っているが、 年度内の実施は見通せていない。	2 (3)	・上笹下の買い物支援事業はぜひ実現してほしい。 ・必要地域への支援を引き続き進めてほしい。 ・他地区でも同様のことが起きると思うので、ミニスーパーの誘致等を進めてほしい。 ・上笹下はバスが不便なところもあり、高齢化しているところもあるので、ぜひ進めてほしい。 ・事業を行うこと自体を目的とするのではなく、必要なところに必要な支援をすることに尽力してほしい。	2 (3)		

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度	
2 暮ら とも に支 えあ い、 いき いき と	⑥障害に 対する理 解に向け た持続的 な普及・ 啓発の促 進	⇒	障害理解のための取組(パネル展、映画会等) 16回(16回)	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発19回開催(内訳) こすもすショップ(障害者施設自主製品販売) 11回(4月～7月、9月～3月末見込) 障害者スポーツパネル展(8月20日～26日) 自殺予防週間パネル展(9月11日～15日) 広報よこはま11月号に特集記事を掲載(11月) 障害者週間パネル展の実施(12月4日～8日) 映画上映会の実施 参加者326人(12月6日) こすもすショップレジ袋の作成(1月19日) こすもすショップのぼり旗の作成(3月23日) 事業所マップの改訂(3月29日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・こすもすショップは毎月第3水・木曜の定例販売として定着しており、区民と障害者のふれあいの場となっている。また、製品販売を通じて、地域の障害者施設の関心を高める機会となった。 ・障害者スポーツパネル展について、年度当初予定から追加の普及啓発として、横浜ラポールと協力し障害者スポーツをテーマにしたパネル展を実施することができた。 ・自殺予防週間パネル展は、図書館と共催で実施し、双方の展示により関心を広げることができた。 ・広報よこはま特集号では、自立生活アシスタントのインタビューを掲載するなど、区民へ向けた啓発効果の高い記事を作成することができた。 ・障害者週間パネル展は、区内の障害者作業所等の紹介パネル・障害者の作品を展示することで、来庁者に足を止めて見てもらいやすいパネル展が実施できた。 ・映画上映会の来場者を実施したアンケートの結果も好評であり、啓発ができた。 ・こすもすショップのレジ袋について、販売実績の多いお弁当を入れることができるレジ袋(ロゴ・開催日時等が印刷されている)を新たに作成した。 ・こすもすショップののぼり旗は、区内障害事業所に通っている障害のある方に旗のデザインを依頼し、啓発効果の高いのぼりを作成できた。 ・事業所マップは、過去の使用実績等からより啓発効果の高い掲載項目・レイアウトを検討し、改訂を実施することができた。 	4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・こすもすショップのさらなる周知を行う工夫があればよいのではないかと、多くの人が身近に利用することで、より近い存在となるような施策を検討頂きたい。 ・社会的に大きな意義がある活動だと思う。 ・のぼり旗のデザインに当事者に参加してもらうなど、意識を持てる取組は良いこと。 ・理解を進めるための取組を続けてほしい。 ・活動の周知を引き続きお願いしたい。 	4 (3)
			(1)地域で取り組む自助・共助の取組を支援します <総務課 福祉保健課 生活衛生課 高齢・障害支援課>					
3 安全・ 安心で 住みや すいま ち	①子育て 世代に対 する自助・ 共助の啓 発・促進	⇒	子育て世代向け防災講座の開催 6回	<ul style="list-style-type: none"> ・8回開催(内訳) ・「いそピヨ」での防災講座の開催 6回(8月29日・9月26日・10月24日・11月21日・12月26日・1月23日)、参加者延べ94人 ・子育て家庭向け「防災食」講座の開催 2回、参加者11人(7月10日)・参加者24人(3月23日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いそピヨでの防災講座では、講座や個別相談を通じて、20～40代の子育て世代の防災意識向上や取組促進につながった。参加者からも高い評価であった。 ・当初予定していなかった「防災食」をテーマとした講座を2回開催し、実践的な内容であると参加者から好評を得た。 ・今後も防災講座による防災意識の啓発促進に取り組むとともに、啓発リーフレットやグッズの作成・配付等を通じて講座内容の充実や講座以外での啓発を行っている。 	4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さん達は子育てや仕事で精いっぱい、他のところに目がいかないこともあるので、いそピヨでの講座は重要。これからも続けてほしい。 ・防災食講座は1か所だけではなく、例えばケアプラザを拠点にするとか、細かくやると参加率が上がるのではないかと。 ・臨機応変な対応により、効果をあげることができたように感じる。 ・子育て世代を中心とした防災講座は、非常に先駆的で、ニーズがあるようだ。 ・子どもが絡む防災教育を、学校やいそピヨと連携しながら地域としてもやっていかなければならないが、そこに風穴を開けるような取組をやってほしい。 ・子どもだけ、大人だけではなく、子どもも大人も一緒に考えていくという枠組みがおもしろい。 ・親子での防災講演は定期的開催することが啓発になると思うので、継続してほしい。 ・良い取組なのでぜひ広めていってほしい。 ・様々な家族構成や就労状況に対応できるような工夫をして頂きたい。 	4 (3)
			親子向け防災講演の開催 1回	<ul style="list-style-type: none"> ・講演の開催、参加者30組65人(11月18日) <関連取組> ・子ども向け防災啓発用クリアファイルの作成・配付 1,000部(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子向け防災講演「防災エンスショー」では、親子で楽しみながら防災を学ぶ内容であり、小学生だけでなく保護者にも防災啓発を行うことができた。 			
	②地域防 災拠点の 支援	⇒	拠点単位の安全・安心マップの作成 8拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・マップの作成 8拠点(11月) ・活用ガイドブック作成(11月) ・マップ及び活用ガイドブックの印刷・配付(12～2月) ・拠点訓練での活用 岡村小学校:訓練参加者への説明(1月20日) 滝頭小学校:運営委員等による拠点周辺状況の確認訓練(2月4日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点が的確に活用できるよう、当初予定していなかった、活用方法をまとめたガイドブックを作成し、各拠点運営委員会にて説明した。また、一部の拠点では訓練で活用された。 ・マップ活用促進のため、継続的な支援を行っていく必要がある。 	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心マップを一番必要とするのは、障害を持っている方や外国籍の方だと思う。なるべく多くの方に見ていただかないと意味が無いと思うので、その辺りの工夫をお願いしたい。作って終わりではなく、その後どうやって展開していくのかを今後考えてほしい。 ・拠点防災訓練で中学生に安全安心マップを使い、安全確認してもらったが、分かりやすくすぐに目的地を見つけられたとの事だった。 ・認知症がひどくなった方や発達障害を持った方は、大勢が集まっているところでは、いろんな症状が出てきてしまって避難所には入れなかったり、動き回ったりしてしまう。周りの人が理解していないので怖がってしまう。周りの人たちと少し離れていられる場所の必要性がある。 ・ペットを連れての実際訓練をした。ケージに入れて布をかけるとのアドバイスもらい、大体の犬が静かにできた。多くのペットが訓練できるように継続すると良いと思う。 	
			拠点運営委員対象の講習会開催 2回(2回)	<ul style="list-style-type: none"> ・2回開催 ・第1回:避難所における障害のある人への支援、参加者24人(9月21日) ・第2回:HUG(避難所運営ゲーム)訓練、参加者13人(10月27日) <関連取組> ・拠点運営委員会個別の講習会の開催(8月29日:洋光台第四小学校拠点、9月23日:根岸中学校拠点) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回講習会では、「コミュニケーションボード」の活用など実践的な内容が含まれており、防災訓練での活用の動機づけとなった。 ・第2回講習会では、HUG訓練を通じて、運営委員の避難所運営に関する知識・技術の向上につながることができた。今後もHUG訓練の積極的な活用を呼びかけていく。 			
拠点等でのペット防災対策の啓発 延べ11拠点以上(8拠点)			<ul style="list-style-type: none"> ・ペット防災対策の啓発 15回(～3月)(内訳) 地域防災拠点等でのペット防災対策パネル展示・説明 12回(拠点10、町内会1、防災イベントへの出展2回) ペット防災セミナーの開催 2回(9月10日、11月26日※) ※11月26日は関係団体と共催で開催 <関連取組> ・動物病院へペット手帳配布 17病院各50部(7月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点訓練時でのパネル展示・説明だけでなく、区主催ペット防災セミナーの開催等も通じて、多くの市民へ防災対策の重要性を伝えることができた。 ・ペット手帳が不足となった動物病院へは随時、追加配布を行っており、今後も多くの飼い主にペット手帳が行き渡るように、配布先に継続的な補充を続けていく。 ・限られた時間で、多くの内容を行っている拠点訓練の中では、ペット防災対策訓練を取り入れてもらう難しさがある。今後、拠点訓練の中にうまく取り込んでもらえるよう、さらに働きかけを行う必要がある。 				
③地域や 防災ボラ ンティア と小中 学校が連 携した防 災訓練等 の実施	⇒	12校(11校)	<ul style="list-style-type: none"> ・13校(延べ14校)で実施(内訳) ・自主防災組織による訓練:3校 岡村小学校児童・岡村中学校生徒(9月1日)、参加者合計280人 根岸中学校生徒(10月15日)、参加者25人 ・地域防災拠点訓練:7校 森東小学校児童(1月13日)、参加者229人 浜中学校生徒(1月20日)、参加者15人 洋光台第一中学校生徒(1月20日)、参加者26人 さわの里小学校児童(1月27日)、参加者240人 汐見台中学校生徒(2月17日予定)、参加者34人 杉田小学校児童(3月3日予定) 森中学校生徒(3月11日予定) ・防災授業:4校 山王台小学校6年生(11月6日)、参加者49人 浜小学校4年生(11月28日)、参加者73人 屏風浦小学校4年生(12月1日)、参加者95人 根岸中学校2年生(1月15日)、参加者88人 	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度はほぼ全ての中学校で実施予定だったため、実施率の低い小学校を対象に校長会で協力を働きかけるとともに、28年度未実施の小学校へ防災授業を盛り込んでもらうよう、個別に働きかけを行った結果、新たに2校(浜小学校、屏風浦小学校)が加わった。 ・親子向け防災講演で作成・配付した防災啓発用クリアファイルを、防災授業に参加した児童へ配付した。 	4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時は、常に地元にいる中学生は体力もあり、素晴らしい担い手となってくれると思う。日頃から要援護者への理解を深める講習等があると良い。 	4 (3)	
		④自治会 町内会 での災害 に備えた 要援護者 支援の推 進	⇒	事例発表会の開催 1回	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表会の開催(3月7日) 			<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表者(森が丘自治会、洋光台連合自治町内会)及び講演者が決定し、その内容について確定し実施した。
		取組方法や事例集などを掲載したホームページ作成 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ作成(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者支援に関する全市的な取組や、地域での取組を充実させるために必要な情報について、適宜追記・更新し、内容を充実させていく。 				

今年度の主な事業内容 (取組事項)			自己評価			事業評価委員の評価		
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末 達成数値/達成時期	期末 振り返りコメント	達成度	コメント	達成度	
3 安全・安心で住みやすいまち	(2)防災対策に取り組みます <土木事務所>							
	①防災対策工事の実施	⇒	道路がけ防災工事の完了 1か所 (1か所) ⇒ 橋梁架替工事の完了 1か所	県道横浜伊勢原線磯子区杉田二丁目地内道路改良工事 ・工事契約(4月) ・工事着工(6月) ・ 工事完了(3月) 左右手橋架替工事 ・工事契約(8月) ・工事着工(12月)	・工程管理を適切に行った結果、目標通り達成できた。 ・関連工事の実施に際し、不明の埋設物による支障が生じるなど不測の事態が発生し、本体工事の着手が3月となり、工事の完了が30年6月の見込みとなった。	3 (3)	・なぜそこで防災工事が必要で、どういう意味を持つのかを住民が知らない、他人事に見えてしまう場合もあるので、周知や理解を得られるようなコミュニケーションに引き続き取り組んでほしい。	3 (3)
		(3)まちの交通安全対策に取り組みます <土木事務所>						
	①交通安全対策の実施	⇒	通学路の安全対策 ⇒ 歩道拡幅工事の着手 1か所	・スクールゾーン対策協議会実施 19校(～7月) ・ 要対策箇所への安全対策の実施完了 57か所 (3月) 汐見台平戸線(笹塚交差点から南区側)道路改良工事(岡村五丁目) ・占用企業者による移設工事の完了(9月) ・工事契約(9月) ・ 工事着工 (12月)	・30年度以降、対応が必要な、残る箇所について引き続き対応を進める。 ・工事の完了は30年7月の予定となっているが、早期完成に向けて、工事を円滑に進める。	3 (3)	・住民の意見を聞きながら、どこに安全対策が必要かを決めているということなので、引き続き丁寧に進めることをお願いしたい。	3 (3)
(4)地域での食の安全を支援します <生活衛生課>								
①地域でのイベントや配食サービス・昼食会等における食品取扱いの自主管理支援	⇒	地域でのイベントや配食サービス・昼食会における食中毒発生ゼロ	・ 地域での食中毒発生ゼロ (～3月) ・町内会等イベントでの食中毒予防講習会の開催 4回、参加者延べ109人(5・6・8月) ・ボランティア配食サービス・子ども食堂向け講習会の開催 2回、参加者延べ50人(11月) ・上記以外食中毒予防講習会の開催 36回、参加者延べ1,178人(～3月) ・食と暮らしのパネル展の実施(5・7・10月)	・町内会等イベント向け食中毒予防講習会では、最新の食中毒予防情報を伝えることができたことで、地域で行われる夏祭りや餅つき、磯子まつりでは、食中毒の発生がなかった。 ・ボランティアによる配食サービス、子ども食堂向けの食中毒予防講習会では、最新の食中毒予防情報を伝えるとともに、子ども食堂へはすべて現地に行き、具体的な食中毒予防の支援ができた。 ・地域に出向いて行った食中毒予防講習会では、区民が家庭やお店で食中毒にならないための情報や、正しい手洗い方法などを伝えることができた。 ・引き続き、食中毒予防啓発の手を緩めず、工夫してよりわかりやすい資料などを作成し、講習会や現地支援等を行っていきたい。	3 (3)	・講習会はどれだけの人が参加するかということにかかっているため、周知の工夫が必要。 ・引き続き食中毒発生ゼロに向けて講習や支援を徹底していただきたい。 ・結果も大事だが、そこまでのプロセスも大事。 ・子ども食堂や食事を提供するサロンなど、食事を提供できる場が多様化しているため、食中毒ゼロに向けた地域への支援をお願いしたい。	3 (3)	
	(1)親切・丁寧な区民サービスを提供します ～窓口サービス等の満足度向上～							
おもてなしの心による区民サービス	①おもてなし研修や対応マナー講座の開催、窓口外部評価の実施(総務課)	⇒	窓口満足度調査における「満足」「やや満足」の割合95%以上 ※市民局が10月～11月に実施	窓口満足度調査における「満足」「やや満足」の割合 97.0% (横浜市平均:97.2%)(12月) ・おもてなし研修の実施、6回、参加人数179人(8月) ・市民局実施の窓口外部評価(5月8日～6月2日)、報告会開催(7月) ・応対マナー(アンガーマネジメント)研修実施、参加人数27人(10月) ・区独自の窓口外部評価実施(11月～12月)、報告会の開催(1月)	・おもてなし研修の受講者からは、「基本を再確認でき、ためになった」などの意見があり、概ね好評であった。 ・市民局実施の窓口外部評価は、96.4点で全市平均を0.9ポイント下回る結果であったため、これを共有し改善できるよう、今後の研修等に生かしていく。 ・応対マナー(アンガーマネジメント)研修の受講者からは、「窓口業務で役に立つ」「すぐに実践したい」など好評であった。 ・窓口満足度調査では、全ての項目において昨年と比べ「満足」の割合が10%程度上回っていた。 ・30年度も引き続き上記の研修等を実施し、更なる区民サービスの向上を目指していく。	3 (3)	・窓口対応は良くなっていると思う。 ・2階でマイナンバーカードや住民票を取りに行ったときに案内の方がすぐサポートしてくれたので、待つ時間もあまりなかった。 ・窓口対応だけでなく、地域へ出向いての活動も大変多く、役所と地域住民の距離がとでも縮まっている。大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。 ・新規転入者、特に海外からの転入者に対しては、引き続き丁寧なフォローをお願いしたい。 ・マイナンバーカードや様々なことで個人情報の問い合わせや発送事務も多いと思う。事務ミス発生ゼロはとて心強い。今後も期待する。 ・ホームページは誰が見るか分からないので、変更事項が生じたときはその都度更新してほしい。 ・効率的な仕事の進め方を模索されていると思うが、外部のコンサルを入れての客観的な検証等を進めている自治体はないのか。あれば、そこの取り組みも参考になるのでは。 ・多くの事業が実施されており、構造的に、今後も基本的に増える方向にあると思う。新しい事業を実施する際には、過去の事業を見直すなど、全体の事業数・仕事量のバランスも考慮すべきではないか。 ・新しいことにも取り組み、成果もあげているが、職員の負担が増えているか心配。働き方の見直しを国を挙げてやっているところで、職員がずっと残業しているのはまずいと思うので、削るものを今後検討してほしい。 ・働き方に関する項目が無い。スキルアップとか新しい取組をしながら、同時にどうやったらストレス無く働けるかというのを、バランスを取りながら検討してほしい。 ・職員の働き方に関する項目を次年度以降設けるべきではないか。 ・効率性と厳格にやることのバランスが大切になってくる。厳格にというのは当たり前だが、どうやって職員の負担を減らしながら進めていくかを考えてほしい。	
		②マイナンバーカード申請者に対するすみやかなカード交付(戸籍課)	⇒	・マイナンバーカードを作成する地方公共団体情報システム機構(J-Lis)から磯子区役所に送付された納品数のうち、申請者に交付済みの件数割合83%(1月)	・29年6月から交付予約制を廃止し、申請者は交付通知書が自宅に郵送され次第、区民が希望する日時に受け取ることが可能になった。 ・28年12月までに交付通知書を送付した未交付者への勧奨通知を、9月から12月に送付してマイナンバーカードの受取りを促した結果、来庁者の増につながっている。			
	③個人市民税・県民税・固定資産税・都市計画税等の適正な課税(税務課)	⇒	・29年度定期課税において適正な課税を実施(納税通知書発送) 固定資産税・都市計画税 57,778件(4月) 軽自動車税 20,257件(5月) 個人市民税・県民税普通徴収分 30,720件(6月) ・固定資産税・都市計画税:30年度評価替えの現地調査約2,000件(6月～8月)、例月の新築・滅失家屋調査のほか、定期異動の土地調査約3,500件(12～1月) ・課内に①CS(お客様満足度)向上②ES(職員満足度)向上③情報セキュリティ強化・ワークスタイル改革の三つのプロジェクトを設置し、各プロジェクトにおいて、3～5回の打合せを実施(6月～3月予定) ・特に喫緊の課題であるマイナンバーを含む個人情報の保護では、上記プロジェクト③において、次の取組を実施し、セキュリティ強化を実施 書庫内資料の配置替え(11月) 事務室内書庫を鍵付きに変更(1月) 他都市照会の処理方法を改善(2月)	・29年度定期課税において適正な課税を行った。賦課誤りは発生しておらず、また、窓口等での誤交付、誤送付などの事務ミスも発生していない。引き続き、賦課誤りや事務ミスの発生ゼロを目指していく。 ・引き続き、課内プロジェクトにおいて、①お客様満足度95%以上の達成、②超過勤務時間の縮減、③特定個人情報の適正な管理などの課題の解決を図っていく。				
	④スキルアップ研修会の開催、快適な窓口サービスの提供(保険年金課)	⇒	・スキルアップ研修会事前アンケートの実施(質問事項・情報提供事項の募集)(5月) ・研修内容の検討(6月～8月) ・朝礼での研修会の開催、全4回(9・10月) ・研修後アンケートの集計・今後の進め方の検討(11・12月) ・フォローアップ資料の作成・課内全職員への配付(1月～3月) ・窓口周辺と執務室内の清掃・整理整頓の実施 20回(5月～3月)	・事前アンケートを通して、日頃、職員が窓口案内をする中で感じている疑問点などの洗い出しができた。アンケート結果を踏まえて研修内容を検討し研修を実施したことで、ある程度疑問点を解消することができた。 ・研修でわからなかった点や解消できなかった疑問点については、フォローアップ資料を作成・配付することで疑問点を解消し、円滑で親切丁寧な窓口案内につなげることができた。 ・課全員で清掃・整理整頓に取り組むことで、チームとして快適な窓口環境を提供しようという意識が醸成された。窓口周辺を快適に保つことができたが、執務室内は整理されていないところがあるので、今後も定期的な整理整頓を実施していく。				

今年度の主な事業内容 (取組事項)		自己評価			事業評価委員の評価	
施策の柱	主な事業・取組	指標 ※()はH28実績	主な実績 期末期 達成数値/達成時期	期末期 振り返りコメント	達成度	コメント
おもてなしの心による区民サービス	(2) 正確・迅速に事務を執行します					
	①各課と連携した迅速・適正な会計経理事務の執行 (総務課・区会計室)	⇒ 経理事務研修等の開催 6回	<ul style="list-style-type: none"> 延べ6回開催 経理担当者説明会 1回、参加者19人(5月) 検査員研修 2回、参加者17人(5月) 経理研修(契約支出事務編) 1回、参加者13人(7月) 経理研修(謝金アルパ'仆編) 1回、参加者23人(7月) 経理担当者説明会 1回、参加者17人(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会、研修や日頃の注意喚起等を行うことで、概ね適正な会計経理事務の執行が図ることができた。30年度に向けても、取組を継続して適正な事務執行を維持していきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 要望に早めに対応しているというのは区民にとって一安心だと思う。 区の中でどのように処理が行われているかは見えないところなので、ちゃんと対応しているということが伝わるようなアピールをしてもいいのではないかな。
	②道路・公園等の改善・補修要望への迅速な対応 (土木事務所)	⇒ 年度内対応完了率 80%	<ul style="list-style-type: none"> 改善・補修要望受付件数: 1,049件(～3月) 完了件数: 855件(完了率: 81.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年より受付件数は減少、完了率は向上している(前年同時期1,000件、前年同期完了率: 78%)。 道路等の老朽化による要補修箇所増加や倒木危険、雑草の繁茂による通行障害に対応するため、担当者間の緊密な連携による迅速かつ的確な対応に努めた。また、他部署とも積極的な連絡を図り、スピーディーな要望対応を図った。 		
	(3) 環境に配慮した快適な庁舎環境を整備します					
	①快適でわかりやすい庁舎環境の整備 (総務課)	⇒	<p>照明のLED化 9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務手続きに着手(6月) 業者選定(8月) 工事完了(9月) <p>温水洗浄便座の整備 9月</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事日程の確定(6月) 業者選定(7月) 工事完了(8月) <p>音声誘導装置の設置 11月</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者施設の現地確認及びヒアリング並びに設置する装置の検討(6月) 音声誘導装置の機種選定(8月) 区庁舎正面入口と国道16号側入口に音声誘導装置の設置完了(10月) <p>案内表示の見直し 11月</p> <ul style="list-style-type: none"> 当初予定していた、劣化していた区庁舎内の案内表示の撤去、改修、清掃の完了(9月) サインの改修に向けた庁内プロジェクトの実施(1月～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 当初の予定通り、区庁舎3階廊下部分のLED化が完了した。 30年度以降(2020年まで)に予定している庁舎内LED化を効率的に実現するため、温暖化対策統括本部への働きかけを継続する。 <ul style="list-style-type: none"> 本工事の完了をもって区庁舎における全ての階に温水洗浄便座が設置された。 <ul style="list-style-type: none"> 音声案内装置の機材選定や入力音声等について視覚障害者団体とその都度確認を行いながら設置したことにより、同団体の方々から区庁舎の利便性が向上したという評価を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> 区民から、より見やすい案内表示(サイン)にしてほしいという声があったことや、2020年の東京オリンピック開催に向けて、サインの新たな見直しに向けた検討を行う。 サインの改修に向けた庁内プロジェクトを立ち上げ、サインの課題の抽出やあり方の検討を行うなど円滑な改修設置に向けた行動に着手し、29年度中に構想をまとめることとした。 		<ul style="list-style-type: none"> 快適に感じる。 特に寒い時期、温かい便座は有難くホッとする。 トイレは見回りもしていると思うが、綺麗にされている。 音声案内装置の設置に障害者の方が喜んでいたのを聞いて良かったと思った。 障害者、外国人のみならず、多様な就労形態・ライフスタイルが当たり前となっているなかで、様々な人への配慮を引き続き行って頂きたい。 倉庫を整理するとか、通路には物を置かないようにするとか、防災の面からも徹底されて良かった。 雪の日に雪掻きがしてあって有難かった。